



## 4年目を迎えるにあたって 外科からのご挨拶とご報告

2009年4月に当院外科に着任してから、これまで地域の方々や病院、医院の先生方にささえられながら、この2012年4月より4年目を迎えることができました。

早いもので外科医としても25年目という節目の年になります。これまでに積んできた多くの経験を生かして、期待を裏切ることのないよう今後とも努めていきたいと考えております。

外科部長 久保田太輔

### 2011年度 手術実績

2011年4月1日から2012年3月31日までの1年間に、全身麻酔、硬膜外麻酔（または腰椎麻酔）を中心に195件の手術を行い、内34件は緊急手術で、それぞれ前年度より増加しております。内容は、多かった順に（1）鼠径ヘルニア手術54件、（2）胆嚢結石症手術36件、（3）急性虫垂炎手術19件でした。（1）～（3）で全手術症例の半数以上をしめますが、それぞれの特徴は、

- （1）**鼠径ヘルニア手術**は、ポリプロピレン製の人工膜を用いる手術方法（ダイレクトクーゲル法、またはプラグメッシュ法）を主に行っており、痛み、つっぱり感も軽度で、54件のうち47件**90%弱の人が手術翌日に軽快退院**しております。
- （2）**胆嚢結石症手術**は、炎症のつよい症例や手術既往のある症例も、術後の痛みも軽度でより早くに退院可能な腹腔鏡手術をまずは全例に行うようにしております。昨年経験した36件**全てに腹腔鏡手術から開始し**、36件のうち34件**94%は腹腔鏡手術で終了**しています。（2件は安全を優先して開腹移行しましたが、副損傷なく終了しています。）これにより腹腔鏡手術の2人は手術翌日に、最多の17人**50%の人が手術後2日目に軽快退院**しております。（9人が3日目と続きます）また症例により、臍のみ縦切開して行う**単孔式による腹腔鏡手術（TANKO）**も5例行ないました。
- （3）**急性虫垂炎手術**は、緊急手術となることが多いのですが、夜間休日でも胆嚢結石症手術と同様、できるだけ腹腔鏡手術としており、（開腹手術をご希望された1人を除く）18件**全てに腹腔鏡手術を行い**、1件は安全を優先して開腹移行しましたが、ほか17件**94%は腹腔鏡手術で終了**しています。腹腔鏡手術後の経過は良好で、2人は手術翌日に、最多の8人**50%弱の人が手術後2日目に軽快退院**しております。

また、胃癌や大腸癌など悪性疾患に対する手術を20件行いましたが、年々高齢化がすすみ悪性疾患の高齢者も多くなっております。高齢や低栄養など危険性が少なくありませんが、できるだけ安全を確保しながら根治を目指す手術を行っております。**90歳以上も3件根治術（90歳、92歳胃癌手術、93歳大腸癌手術）**を行い軽快退院してお元気にされております。

肝右2区域（右葉）切除のような侵襲の大きな手術も安全に行ないました。

ほか、胸腔鏡下肺部分切除（VATS）、下肢静脈瘤手術、卵巣腫瘍など、手術分野も幅広く行なっております。